

水俣市の久木野ふるさとセンター愛林館(沢畑亨館長)が、山仕事を体験する合宿「働くアウトドア」を今年も開いている。学生や社会人のボランティアが連日、森の下草刈りやつる切りに汗を流している。

山仕事体験 森を考える

森林の機能や現状について考えてもらおうと、1995年から続



山の斜面で、鎌やのこぎりやつるを切る作業に精を出す参加者＝水俣市



木に巻き付いたつるを鎌で切り、はがしたところを締め付けるように食い込んでいた

水俣市で「働くアウトドア」 ボランティア つる切りに汗

く恒例行事。参加者は自分の都合で数日間泊まり込んだり、半日だけ作業したりできる。今年も1日から14日まで開催している。

11日には熊本市などから7人が参加。同館が管理する標高約4000級の「水源の森」(約21畝)で、木に巻き付いているクスやミツバアケビなどのつる性植物を切る作業に挑んだ。

沢畑館長によると、つるがシイやカシなど樹木の成長を妨げ、森全体の成熟が遅くなるという。参加者は薄暗い山の斜面を登りながら、鎌やのこぎりで黙々とつるを切った。

熊本市の大学院生山根亮子さん(22)は、「大変だけどやりがいがある。人との出会いも楽しい」と笑顔。八代市の高校教諭松永美志さん(36)は「これまで、ほんやりとしか山を見ていなかった。1本1本の木を見つめるいい機会になった」と話し、額の汗をぬぐっていた。(辻尚宏)